

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600398		
法人名	都メディカル有限会社		
事業所名	グループホーム福田の家 1号館		
所在地	静岡県磐田市東小島260		
自己評価作成日	令和1年7月1日	評価結果市町村受理日	令和元年10月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kami=true&JigyosyoCd=2276600398-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和元年7月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設ではありませんが お家の延長と思って頂ければ、ご自分の遣りたい事をして頂ければと考えています。施設の有る場所も田んぼに囲まれ施設裏には畑が有りジャガイモ・さつま芋・玉ねぎ・他 植えたり、駐車場の周りには花壇が・・そこには季節に成ると花を咲かせ実を付けます。桃、柿、びわなどを口にする事が出来ます。天気の良い日には駐車場にあるベンチに座り外気浴をしながらリハビリ体操、ボール投げ、歌を唄ったりして楽しんでます。良く施設見学に来られた方が「前を通るとみんな楽しそうですね」と言われます。「その人らしく 安心して 過ごせる家」を理念とし利用者さんの支援が出来ればと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

現在の管理者が着任して4年を経て体制も整いつつあり、ここ1年で「職員の自律」を目指した新たなチャレンジが始まっている事業所です。主なものだけでも①～④のような取組みがあり、「働きやすい」職場づくりが推進されています。ー ①防災の係は管理者から各ユニット1名ずつ3名の防災委員へ移行させ、訓練計画等周辺整備を任せるようにした②話し合いの場を持つ重要性を説き、各ユニットでスタンディングミーティングが随時おこなわれている③週1回の屋礼を毎日の朝礼に切り替え、ユニット間の情報共有を確かにした④各ユニットに配置の計画作成担当者3名の他に、現在2名が実践者研修に参加中で増員を図っている

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく安心して過ごせる家」の理念を掲示して管理者、職員が共有し利用者さんの思いを大切に聴き入れ支援をしています。	年度始めの運営推進会議で表明して出席者に理解を図ったり、玄関のほかに職員ロッカーのある事務所にも掲示して、理念が目に入るようにしています。「その人らしく安心して過ごせる家」を実現させるための方策として、すり傷程度も事故と捉えて是正に取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事ごとなど『節分、敬老の日、祭典、他』にお誘い頂いたり、施設にボランティアの方の来設時に地域の方に声をかけ誘ったりしています。 子供の会の廃品回収参加したりしています。	看取りや移設で15名の入れ替えがあって平均介護度が2.4となり、地域行事に出かけやすくなっています。地域では節分や敬老会を公民館などで催して下さっていて楽しい1日をご過ごすことができ、また中学生の福祉体験は現在15、6名ほどが来所しており、年々増えています。	幼児と関わる機会も増えるよう、近隣の幼稚園に挨拶に出向くことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で 認知症について話したり、説明したりしております。 他施設の管理者、包括の方と地域の方の皆さんとの集まりに出向き話す機会を作様にしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、毎回状況報告の場が有り、「入居者の平均年齢、介護度、状態説明」を行っています。 会議の名前を『ふれあいトーク団欒』と変え参加し易いのではないかとという意見から変更してみました。	運営推進会議は「ふれ愛ト〜ク」と銘打ってざくばらんに話し合える場を目指して開催しています。丁度境に位置することで住所の自治会とともに親しく行き来する自治会2箇所からの出席があり、体制を工夫して職員も5、6名参加できていて、議事録からは充実ぶりが伝わります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	全体連絡会議等に、参加をしています。 生活課、保険課に行き現状報告、相談についてお話に出向く様に心掛けています。	前回の実地指導では指摘事項もなく、事業所も二ヶ月に1度の事業所連絡会、毎年の集団指導に出向いています。介護相談員が毎月訪れ、介護度も軽くなったことから利用者の愚痴や不満が自発的にこぼれることから、よく耳を傾けて下さっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループ丸となり掲示物、市、県に誓約を結び実施している。施錠は、時間を決めて行っています。	昨年の法改正については指針も整備し、「身体的拘束適正化検討委員会」、研修会の開催も順次進めています。「職員が働きやすい職場をつくる」ことを念頭においている管理者の下、ストレスが増幅することなく業務に取り組めている様子を視認しました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市・県の指示に従うと共に本部主体の研修・勉強会に出席しレポート提出を行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人については最近家族の意向でついた方が居ますが、質問があれば答えられる様にはしておきたいです。本部に問い合わせ体制は出来ています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書を読み上げ理解いただけるまで説明をし納得頂いた上で締結しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項・運営規定については各ユニットに掲示し表記しています。玄関にご意見箱を用意して意見要望等の受け入れをしています。奇数月には会報紙を発行して、毎月利用者さんの様子を報告しています。	運営推進会議の内容も要約して「今月の〇〇さんのご様子」を届けてきましたが、本年に入り「写真を入れる」ようになりました。面会は多い人は週3日、隔週で自宅に戻るとい人もおり、「皆さんで～」とおみやげ持参の家族もいて、なんでも言ってもらえる関係を築いています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼を毎日行い本部の方針等の説明した後には職員さん一人一人が行っているサービス内容を発表しています。	運営推進会議の議事録は職員が読んだ後、確認印を押すことが慣習となっていることから、「情報共有」「参画型」が推進されていることが視えます。週1回の昼礼を毎日の朝礼に替え、職員会議においても管理者が進行役を降りて自主性を養う場に変容させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	4月の介護職員処遇改善加算の改定に伴い支給形態が変わり 働いた分だけ給料も支給され 達成手当も達成すれば頂ける。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月一回 本部からの課題に対して勉強会を開催している。 年に2回、研修会には全員参加のレポート提出する事に成っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は包括の方と他施設の管理者でグループワークをしたりして意見交換や交流を図っています。 職員さんも個々の仲間や友人関係を持ち意見交換をしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お話をすることで緊張、恥ずかしさが取れると思いますので、声掛けをし利用者さんのニーズ、行動を把握出来る様に心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時のリスクの説明をし理解をして頂く。小さい事、些細な事でも面会等顔を見た時には近況報告をする様に連携を取れる様に心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	協力医、協力施設、ケアマネ、地域責任者にアドバイスを受けて必要な場合には、管轄の包括支援センターに依頼しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	安心して生活できる様に困った事など何か有ればお話をしたりして信頼関係を築きお互いを知って頂ける様に支援をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自宅での生活と思って頂ける様に皆で出来るお手伝いをして頂き皆さんと楽しく共同生活が出来る様に支援をする。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の確認許可が取れば面会、外出する事も出来ます。 電話も同様に協力支援を致します。	喫煙を愉しみとする利用者とは月1回管理者がスーパーマーケットやコンビニエンスストアへと気分転換を兼ね煙草購入に出かけています。他にも絵を描くのが好きな利用者は図書館やDVDショップ通いを習慣としていて、職員が手伝うことで継続が叶っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の仲介に入り仲を取り持ちをしてたり 他館の人との交流を取れる様にレクリエーションを皆で行ったりしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	過去の相談を受けたら回避できる様な理由でしたら協力を惜みず協力致します。 退去時情報提供を管轄する包括に提供して退去後に利用できるサービス事業者のご紹介に繋がる様に支援いたします。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションを大切にし、一人一人の想い・希望・意向を把握して日々の生活に生かしています。	管理者からは「話し合いするように」「都度メモをすること」と呼びかけ、各ユニットでスタンディングミーティングが随時おこなわれていて、気づいたことはそれぞれがメモに残すことが事業所の文化となりつつあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族・ご本人に今までの生活歴・健康状態を聴き情報収集し把握に努め、入居以前の担当ケアマネさんに情報提供して頂く。 アセスメントを実施し、モニタリングを定期的に行う事でこれまでの暮らしを把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方を記録に残し「気付き、変化」があれば職員全体に把握出来る様にしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族さんのニーズをしっかりと聞き取り それに対してどんな支援が良いのかサービス担当者会議を開き 本人一番有った支援を見つける様にしています。	ユニット内で都度カンファレンスを重ね、ユニット間においては毎日の朝礼で共有につなげています。各ユニットに計画作成担当者が1名ずつ配されていますが、現在2名が実践者研修に参加中で、今後はさらに安定の予定です。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過は 小さな事 気づきでも記入して介護計画の見直しに生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族様の状況に合わせた対応や支援をします。 看取り支援を出来る様に進めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方からのお誘いが有れば行事ごと、祭典にはホームに屋台が来て下さる。廃品回収に協力をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に かかりつけ医をどうするかをしっかりと聞き、途中から受診が大変に成れば施設のかかりつけ医に変更される方もあります。	協力医に26名が変更し、1名は従来のかかりつけ医を継続しています。前者は職員が通院介助をおこない、後者は医師が往診くださっていて、家族は「任せて安心」状態ですが、変化については「介護記録」に残し、何かあれば電話連絡にて共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週一回の看護師の来設時に変化等があれば 報告相談を行い適切な処置を行う様にしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院の担当者と連携を取り情報交換を行い、情報提供をし入院中の面会に伺い状況の把握に努める様にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員間の協力と医師、看護師の協力の下で終末期の取り組み、看取りに対しての施設の指針の説明をし理解と協力を今現在している最中입니다。	契約時に家族には看取りをおこなう事業所として指針に基づき説明しています。ここ2年で5名の看取りをおこなっており、医師も協力的で1名については加算も取得しています。旅立つ1週間前あたりからは家族も日参くださっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内独自の連絡網を使い職員間の連絡は取りご家族様には、処置の意向をお聴きし救急隊に伝える。応急処置に関しては本部マニュアルにて勉強をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行い 別に津波災害の訓練を行う様にしています。地域の避難訓練に参加して地域の皆さんの協力をお願いしています。	防災の係を整備して、設定やプログラムを管理者から職員主導で進めるよう切り替えていて、現在は各ユニット1名ずつ3名の防災委員が誕生しています。備蓄は1週間分ほどあり、棚卸は本部担当で、試食で消費のうえ、入れ替えをおこなっています。	一度消防署職員の立ち合いを求めることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目線を合わせて声掛けに気を付けております。プライドを傷付けない様に心配りし、本人の尊重を受け入れるように気配りに気を付けた支援をしております。	食事の場面では、飲み込みが悪い利用者には「少し休んで、お水を飲みましょうか」と投げかけたり、スプーンが裏返ってしまう利用者には「お椀をかえましょうか」と提案するなど、優しくアプローチやリフレインをする場面を何度となく垣間見ることができました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けを行い本人が何をしたいのか「どうしますか?」と意向を伺う。洋服も「これで良いですか?」と聴いてから行う様にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課になっている『リハビリ体操、炭坑節』など強制はしませんが、始めの声掛けはしています。レクに関しては、利用者さんにお聴きしてから実施しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は、お聴きしてから着替える。整髪は、毎朝自分でかお手伝いして行います。美容師が二カ月に一度訪問して行います。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材準備が出来る方には、簡単な準備をお願いしています。片付けの食器洗い、食器拭きの手伝いをお願いしています。	ご飯、汁物は職員がつくり、惣菜は業者からレトルト状態で届いていて、食事中は「音楽かえましょうか」とBGMなどにも職員が気遣っています。2ヶ月毎に誕生会には松花堂弁当のようにセットして戸外で摂ったり、シソジュースや餅つきなどの時節料理にもチャレンジしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューの献立は業者栄養士をお願いしています。水分補給に関しては、制限のある方には指示通りに支援し無い方には、10:00・15:00に行います。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のケアに関しては、個々の状態に合わせて行います。起床時に関しても同様に行います。夕食後には必ず口腔ケアし義歯の方は、お預かりし一晩洗浄を行う様に支援しております。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意便意の有る方以外は、声掛けを行い(2時間おき)排泄パターンを把握しなるべく利用者さんが気持ち良く出来る様に心掛けて支援しています。	「長い場合は2時間、トイレに居る」という症状があった人が、今は気持ちが落ち着いたのか緩和され40分程となった例もあります。トイレには便器の蓋を支える簡易ストッパーが段ボールで作られ、ペットボトルでバルーン用の簡易廃棄ボックスとしたり、職員の創意工夫が見られます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に余り頼らず なるべく身体を程よく動かして頂き水分にも気を付け頂く 個々に食べ物で調整できる方には購入して食して頂く様にしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者さんの希望で行う事は困難であるので 週に2~3回に行い入る入らないは、本人の意思をお聴きし無理に行う事は致しません。	入浴はこれまでは週2回だったのですが、1回増やして3回にしています。清潔を重視しつつも利用者の意向も尊重したいとして、本人本位で柔軟に対応しています。また、職員は洗身など自身でできることはやってもらい、見守りに回ることを旨としています。	柚子湯やお茶風呂など、かわり湯も一度検討ください。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢に合わせて横に成って頂きます。その日の体調が悪いとかはバイタルを気にしながら休息して頂く。横になる際には時間を決めて休んで頂く		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された指示通りに与薬をして頂き 副作用、用法に関しては医師からの説明とネットにて検索を行い誰が見ても借る様に心掛けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	たまには外食がしたいと云えば支援できる方には付き添い支援をし、天気の良い日には必ずが気浴をし散歩に出たり支援を行う。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出、外泊は自由に行う事は、出来ます。買い物や外出なども計画し一人ひとり、みんなと云った様に支援できます。	日常、散歩は自力歩行できる人に限られつつあり、外気浴が主となっています。本部は「外出では企画書を～」、また家族には「小口現金の事前申告」が義務付けられ、外出一つとっても手間を要しますが、「利用者のニーズには応えたい」としてこまめな外出支援を実現させています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	高額な金額は 無理です。ですが中には、家人さんの了解を得てお財布にお金を持っている方も居ります。お買い物希望があれば同行し買い物に出掛ける事も出来ます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のやり取りは可能ですが 中には逆効果で不穩に成る方には支援できません。手紙が届けば読んで上げたりし返信には代筆をして上げたりも致します。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外には、プランター栽培で花や野菜を植えたりして、室内では季節ごとの行事関する飾り付けをしたりしています。	太い梁がかかり、天井が高く、窓枠からは田園風景がのぞめます。絵が得意な利用者の描いたものが壁いっぱい貼られているユニットもあり、アクティビティの道具が整理整頓されて置かれている様子から、日頃の活動の様子が伝わります。	棚の上や換気扇に埃が溜まっている箇所がありますので、清掃手順などを見直すことを期待します。また、臭いがこもるエリアがあるので、換気の時間や回数も見直すと、なお良いと思います。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆でお話やゲームが出来る様に席替えをしたりし他館にも行ける様に職員と一緒に行く事も出来ます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた物や家具などを居室に置いて頂いても良くて事由に居室を使って頂いています。	法人が用意するベッドは入所時には木目調のモダンなものですが、重度化に伴い介護用ベッドが必要になると取り替えてもらえるというスケールメリットを享受しています。居室入口には氏名とともに生年月日の記載があり、写真掲示のユニットもあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手押し車、車椅子の行き来出来障害物等は置かない。 台所にいても利用者さんの事が解る様にオープンキッチンに成っています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600398		
法人名	都メディカル株式会社		
事業所名	グループホーム福田の家 2号館		
所在地	静岡県磐田市東小島260		
自己評価作成日	令和1年7月1日	評価結果市町村受理日	令和元年10月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kami=true&JigyosyoCd=2276600398-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和元年7月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

福田の家は、田園風景の中にポツンと建っている平屋建の建物で開放感のある施設です。周りには実の成樹、四季を感じさせる草花が植えて有り 見る目を楽しませてくれています。春にはツバメの巣作りや巣立ち間近で見る事が出来ます。天気の良い日には外気浴を楽しみリハビリ体操、ボール投げ、散歩など健康管理と気分転換を兼ねて他の館との交流を楽しんでいます。2ヶ月に一度の「ふれ愛ト〜ク」を通じて ご家族や自治会の皆様と交流を深め『その人らしく安心して 過ごせる家』を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

現在の管理者が着任して4年を経て体制も整いつつあり、ここ1年で「職員の自律」を目指した新たなチャレンジが始まっている事業所です。主なものだけでも①～④のような取組みがあり、「働きやすい」職場づくりが推進されています。— ①防災の係は管理者から各ユニット1名ずつ3名の防災委員へ移行させ、訓練計画等周辺整備を任せるようにした②話し合いの場を持つ重要性を説き、各ユニットでスタンディングミーティングが随時おこなわれている③週1回の屋礼を毎日の朝礼に切り替え、ユニット間の情報共有を確かにした④各ユニットに配置の計画作成担当者3名の他に、現在2名が実践者研修に参加中で増員を図っている

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『その人らしく安心して過ごせる家』という理念を各館に掲示し利用者さん一人ひとりがその人らしく生活できるよう心掛けています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月に一度の運営推進会議(ふれ愛ト〜ク)の実施。祭りや豆まき等の行事にも参加させて頂いています。ボランティアの方々の来設も行われている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	廃品回収に協力し 中学生の福祉体験授業を毎年12. 3名を受け入れて福祉について学んで頂き体験学習に協力をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、自治会役員さん、市福祉課、包括、ご家族さんに参加をお願いし 施設の現況報告をしその時期の問題点などを話し合い皆さんから意見を聴き今後のサービス向上に役立っています。運営推進会議を「ふれ愛ト〜ク」と変え硬い感じを無くした。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議でより良いサービスに付いてアドバイスを頂いています。管理者が市役所などに出向いて意見等を聴きに伺っている様です。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループ全体で身体拘束0を掲げています。9~16までは開錠し利用者さんの希望があれば一緒に歩いて出る事をしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本部主体の研修に参加したり、職員会議の時にグループ内独自のテキストに沿って勉強会を開催している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	取組みに関しては まだ 取組みについてはありません。今後は、研修などで勉強できたらと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明し承諾の契約を交わしているため理解と納得は得ていると思います。その際に 転倒等のリスクに関しても説明し理解を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、苦情の窓口を明確にし重要事項内にも明記されていて、い『意見箱』の設置をしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で意見を出し合いより良い施設作りを目指している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与規定の改善や休憩時間の見直しなど就業環境整備が行われています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には入社後に本部に集まり研修を受けレポート提出を行う。 正社員には年に二回の研修を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、市の定例会などに出席し意見交換を行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人から話を聴く前にその方の生活歴等を見てからその方の要望などを聞き取れる様に心掛け声掛けにも工夫をする様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族さんと連絡を密に取りご家族さんの要望、不安等を理解しそれが取れる様に共有して行く様にしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	協力医、ケアマネよりアドバイスを頂き 必要な場合には地域包括支援センターにも協力をお願いしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんが手伝えることは手伝って頂き共に助け合って生活できる様に支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子を月次報告書に載せそれを通して伝えたり電話でお話して頂いたりし共に支え合っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族を通して友人、近隣の方の面会を自由な事をお伝えして頂いています。 友人、近隣の方の面会が有ります。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で出来る体操やレクを行い 利用者さんが 触れ合える様支援しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてご本人、ご家族さんより要望等が有ればフォロー支援に努める。 退去支援加算を初めて行いました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さん一人ひとりの思い、希望、意向を把握して日々の生活に生かしています。 判断が困難時には家族さんと相談しケア支援を考えています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、ご本人から今までの生活歴や健康状態を聴き情報収集し把握に努め、入居後には、アセスメントを行いモニタリングを定期的に行う事でこれまでの暮らしを把握する様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを実施しモニタリングを行う事でこれまでの状態を総合的に把握するように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	統合したケアが出来る様、各ユニットでミーティングを行いミーティングノートを活用する。モニタリングは、3ヶ月に一度行いそれを基にして介護計画を作っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中記事、夜間記事、経過記録と日々の様子や変化を記入し職員が共有し介護計画の見直し等に役立っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況や都合に応じて受診の付き添い、外出支援を行っている。 キーパーソンが遠方の方には電話でお話を優先的に行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物際一緒に出掛け欲しい物を選んで頂いたり、ユニット毎に外出、外食を支援をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医と協力医療機関契約を交わし月に1、2回の受診を行っています。その他の医療機関にもご家族さんと協力し受診できる様に支援しています。歯科医の往診も有ります。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師の訪問を受け利用者さんの健康管理を行う医療連携を行っています。利用者さんに変化があればその都度相談し指示を仰げる様にしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院後 受け入れ可能な状況か家族や医療機関から状況を収集したり受け入れ後の対応の仕方を医療関係者から指示を仰ぐ様にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には入居時、後に医師の確認を頂きそれに伴って支援を行う。看取りに関しても入居時に方針説明を行っていて希望があればターミナルケアを致します。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対策マニュアルを目に付く所に掲示、それに従って行動している。支援に付いて常にカンファレンスの取れる体制です。定期的に応急手当、初期対応の研修を行いたいと思います。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各ユニットに防災委員を立て計画、実施を話し合い 防災訓練を年に二回実施し一回は夜間想定で行う。別に津波、水防訓練も行う様に成りました。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報に関する書類は施錠し保管。 掲示物、写真、生年月日などは家族さんより承諾を頂いて掲示等を行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる様に手助けしたり、想いや希望を表出できる様に話に耳を傾けたりするように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や外気浴などを無理強いないで本人の要望に合った支援をし本人の気持ちを最優先する事を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の服装がパターン化しない様に気を付けて支援しています。 定期的に美容師さんに来設頂きカットなどを行って頂く、ヒゲそりは習慣付けて行付て頂く様にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	サラダを混ぜたり、玉ねぎの皮をむいたりして頂き出来る範囲で手伝って頂く支援をしています。食後の食器吹きは、毎回お手伝いをお願いしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み込みの悪い方には水分にトロミを付けたりミキサー食にしたりして状態に合わせて提供しています。食事摂取量、水分摂取は介護記録に残し日々の管理に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に出来る方は見守りながら行い、支援の必要な方は職員による支援のもと行う。入れ歯の方は預かり消毒洗浄を行う。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意の無い方でも時間でトイレ誘導しなるべくトイレにて排泄出来る様に支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の体操、歩行訓練、散歩と身体を動かす時間を設け、水分量、食物下剤で調整を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回行い順番はその日の体調にも考慮して入浴して頂く 湯船に浸かる事が難しい方はシャワー浴にして頂いています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転し無い様に、レクリエーションや外気浴などに参加をなるべくして頂く様に支援して 寝具も定期的に陽に干す様にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬管理は、職員が行い与薬前には、日付、名前を確認後、手の平もしくは口の中に入れて飲み込むを確認します。処方箋の記録を残し一人ひとりの症状の変化を気にし確認にしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事、遣りたい事配慮したうえで洗濯物干し、畳み、食器吹き、モップ掛け等のお手伝いを行って頂いている。散歩、ボール投げ、早口言葉など様々なレコが出来る様に支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には外気浴をし体調に合わせて散歩に出掛けた気分転換をして貰っています。 本人の希望が有れば買い物支援も行います。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口現金規定にて管理し買い物に行ける方には職員同行にて買い物支援に努める。現金管理は、管理者のみの金庫管理を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、希望があれば使用できます。中には月に2回電話でお話をしている方も居ります。手紙に関しても要望があれば支援いたします。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	平屋建てでホールは、天井が高く、明るくゆったりとした空間がある。入居者のレクの写真や季節に合わせた掲示物を貼り居心地の良い空間を作っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、ダイニングテーブルとソファが設置してある。 建物外には、ベンチチェアを置き天気の良い日にはそこに座り外気浴をしたりリハビリ体操やボール遊びを通じて他館の方との交流の場でもあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物や馴染みの物を持って来て頂き使用して頂いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を活かし出来る事はなるべく自分で行って頂き出来ない事を支援し見守り、声掛けを行っています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600398		
法人名	都メディカル株式会社		
事業所名	グループホーム福田の家 3号館		
所在地	静岡県磐田市東小島260		
自己評価作成日	令和1年7月1日	評価結果市町村受理日	令和元年10月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2276600398-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和元年7月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

福田の家は、田んぼに囲まれた所にポツンと建っている平屋です。磐田地区の同じグループ内でも1軒だけが平屋のログハウス調です。敷地の周りには四季を感じさせる花木が植わり実の成樹。季節ごとに開花する見る目を楽しませてくれます。天候の良い日には外気浴に出て体操や、ボール遊び、散歩したりして健康と気分転換をし他館の方とも交流を深めながら楽しんでます。「その人らしく 安心して 過ごせる家」目指して支援をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

現在の管理者が着任して4年を経て体制も整いつつあり、ここ1年で「職員の自律」を目指した新たなチャレンジが始まっている事業所です。主なものだけでも①～④のような取組みがあり、「働きやすい」職場づくりが推進されています。— ①防災の係は管理者から各ユニット1名ずつ3名の防災委員へ移行させ、訓練計画等周辺整備を任せるようにした②話し合いの場を持つ重要性を説き、各ユニットでスタンディングミーティングが随時おこなわれている③週1回の屋礼を毎日の朝礼に切り替え、ユニット間の情報共有を確かにした④各ユニットに配置の計画作成担当者3名の他に、現在2名が実践者研修に参加中で増員を図っている

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループ全体の理念は、『福祉・介護サービスを提供し、高齢者の生活を支えると共に地域の雇用を守り、社会の安定に貢献します。』と有ります。福田の家では『その人らしく安心して 過ごせる家』をあげサービスを提供しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出掛けた時などに行き会った際に挨拶を交わしたり自治会の行事への参加をする。(お祭り、廃品回収、豆まき)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で認知症について説明し話し合って理解をして頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の呼び方を変え「ふれ愛ト〜ク」と呼び、利用者さん家族、2地区の自治会役員様、包括、市福祉課の方々の協力を得て2ヶ月に1回開催し、施設の現況報告をし 皆さんから意見や質問を聴きながら今後の運営とサービス向上に役立てています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	館長が 定期的な連絡会議に参加した際に困った事や問題点を相談しアドバイス等を頂いてきている様です。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループ全体で『身体拘束0』をあげている。 外出したい時などは一緒に出て歩いて、安全で自由な生活が出来る様に支援しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県・市の指示に従い『0宣言』を登録しています。本部主体の研修内容にも含まれ研修を行ってもいます。出易い「スピーチロック」に関して職員皆で話し合い言葉を変える様にした。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては 取り組みはしていないが、利用者さんの中で後見人制度を使う方が、居ると館長から聞いてはいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を掲示し窓口を明確化している。玄関に『意見箱』を設置されています。利用者さんの日常生活状況は月締めの報告書として送っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月1回職員会議を開き職員より報告、意見を出し合い情報の共有化を図っています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	様々な規定を作成し伝える事で向上心も沸きたたる様な気持ちには成っています。『職場環境委員会の職場100番』の設置などで窓口が広がっています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は、既定の受講を義務化している。また内外の研修を受ける機会を確保しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同グループ内でのアルバイト、研修はいつでも受け付けています。内外の研修を受ける機会を確保しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は連絡会議等で意見交換をしています。同グループ内での意見交換をしたりして反映されています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と直接面談した際に色々お話をし要望等をお聴きする。面談出来なかったらご家族様やケアマネさんより情報を聞き取る様にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様とは入居前に時間が有れば直接会う機会も多くして要望等本人の容態状態をお聴きします。その方の情報を少しでも早くに把握出来る様にせ活歴を見たり聴く様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	協力医、居宅さん、本部責任者のアドバイスを受ける様にしながら直接家族の要望、思いを聴く様にします。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	運営理念を基本に置き支え合う関係を築いています。家庭の延長 話を聴き困り事、したい事を話して頂ける様に接する。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に職員と家族の方々と協力し理解しをして頂き本人にとって最善の対応を考えながら実践しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者さんが 友人、知人と施設に入って縁が切れたのでは無く自由に面会等が出来る事をご家族様から伝えて頂いています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者さん同士の間に入り円滑、コミュニケーションが上手く取れる様に支援しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等有れば相談に応じています。お家に帰られた方には退所後の支援で包括や居宅さんへの情報提供を行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さんとのコミュニケーションを大切にし、一人ひとりの想いや意向を把握し日常生活に活かしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、後にご家族様、ご本人様と会話を等して情報を収集しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを行いモニタリングを定期的に行う事でこれまでの状態を総合的に把握するように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月初めの1週間ミーティングを開いてカンファし合い意見を出し合いそれを基に介護計画等も考えています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録に気付いた事、様子を詳細に記録し今後の介護計画に生かす。変化が有れば申し送りノートや口頭で申し送る。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族付き添いの通院などで家族様の都合の悪い場合には 職員が代わりに付き添う事も有ります。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望があれば職員同行で買い物に行き自分好みで買い物ができる様に外食希望があれば支援出来る様にしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	大橋医院と協力医療機関契約しており、密接な関係である。また、本人・御家族が希望する馴染みの医療機関でも受診できるよう支援している。歯科医の往診、治療も出来ます。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の看護師による医療連携があり利用者さんの状態、体調管理をして頂いています。状態を説明し指導、指示を仰ぐ時もあります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に当たっては、入院先の担当者と情報交換を行いスムーズに治療を受ける。退院ごの対応等を相談、確認を行う。入院先に面会に行き状態の把握をする。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に『看取りに向けた方針』の説明をし承諾書に署名、捺印を頂いております。医師から『終末期を迎える』言われた方にも看取り加算等の説明をし対応をしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対策、急変時の対応マニュアルが有り研修の中でも取り入れられています。磐田市立病院への搬送時の連絡票も作られた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回の防災訓練を行い内1回は、夜間想定で行う。別に水害避難についても取り入れています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の言動を否定する事がないように、まずは、入居者の言葉に耳を傾けるようにしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自己決定出来るように手助けしたり、自己決定を否定することがないように、話に耳を傾けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者を最優先に行う事を心掛け、希望があれば、その都度希望に添った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家から持参頂いた衣類等を季節に合う様に選んで頂き着用頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや食器洗い、拭きを一緒に行ったり手伝って頂いています。食介でミキサー食の方には食べ物の名前を云い口にして頂く。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人の状態に合わせてバランス良く考えながら行っています。水分も定期的以外にお茶で無く味の付いた経口水などを補給しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のウガイは、個々の違いはありますが行う。夕食後には、義歯を預かり消毒を一晩しています。口腔衛生管理加算を加える様に歯科医院にお願いしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	以前は、排泄チャックが有りましたが現在は時間またはご本人の意識(行きたい気持ち)を大事にしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や食事などを一人ひとり工夫し、予防に取り組んでいる。家人にお願いしたりして果物などの差し入れをして頂く事も有ります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2~3回入浴を行うようにしている。一人での入浴を希望する方には、個浴を提供したり、入浴の順番は、入居者の身体状況に合わせて支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢の方とか体調に合わせて時間を決めて横に成って頂き 昼間飽きない様に職員がレク等を工夫しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は職員が行っており、手渡しをし、内服したのを確認している。処方箋の記録を残し、一人ひとりの症状の変化の確認に努めている。間違いが無い様に一包化し服薬の際には病院の様に「日付、名前を呼び確認してから」手の平か口に入れて上げる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事、やりたい事を配慮したうえで洗濯物干し・洗濯物たたみ・食器拭き・編み物・ぬりえ等が楽しく出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には外気浴を楽しんだり、利用者さんの身体の状態に合わせて、散歩の支援をしています。本人の希望があれば、買い物の支援もしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	高額な金額は、管理者の下で管理しています。中にはお金持参していないと…方はご家族の了解のうえで少々のお金を持っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎ等は 利用者さんの状態で対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	平屋建てで天井が高く、明るく、ゆったりとした空間がある。 利用者さんの写真や皆で制作した季節に合わせた物などを掲示しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングテーブルとソファが置かれている。ホーム前の広場にはベンチを設置し、入居者が一緒に集まる場となっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅でご自分が使っていた物を持って来て頂いたり慣れ親しい物などご自由に置かれています。「ご自分の部屋です 好きな様にお使いください。」と入居前に館長も話している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を生かし、無理せず行って頂き 出来ない事のみを支援・見守り・声掛けを行っています。		